

久保田順先生記念号によせて

久保田順先生は、関東学院大学経済学部助手、講師、助教授を経て、1966年に本学経済学部に就任されて以来、1997年3月に定年退職されるまで、本学ならびに経済学部の発展のために力を尽くされました。先生は、学部において「世界経済論」の講義と「ゼミナール」を担当され、多数の学生の教育にあたられました。特に、ゼミナール卒業生は250余名を超え、現在社会の第一線で幅広く活躍しております。また、大学院での指導を通して多くの研究者を養成されました。その結果、現在多くの大学院卒業生が、研究の第一線で活躍するとともに後進の指導にあたっています。また1981年から1983年まで、経済学部経営学科長を勤められ、大学、学部ならびに研究科の発展のために尽力されました。

先生の研究業績は、3つの研究領域に分けて整理することができます。第一は、戦後の世界経済の構造分析に関わるものです。先生は『世界経済の戦後構造』（1973年）に集約される諸論文の中で、戦後世界経済の構造分析の方法論として、「全般的危機論」を提唱されました。そのため、従来の「全般的危機論」論争を整理し、その有効性と未解決の問題を解明されました。これは、既存「全般的危機論」の方法論に対する「安易」な否定を排し、その中から抽出すべき課題を提示し論争を一步発展させたという点で大きな意義がありました。

第二は、市民（連帯）論に関する研究です。先生は、『自力更生論としての第三世界』（1982年）と『市民連帯論としての第三世界』（1993年）の中で、自力更生の方法によってこそ自立的民族経済の確立が可能であり、それは単に政治的、経済的「自立」という民族的課題を目指すだけでなく、同時に徹底した民主主義的課題にも応えることができるものとして、普遍的価値を内包していることを明らかにされました。また、人間一人一人にとっての徹底した民主主義的課題を「市民連帯論」という問題領域の視座から捉えかえすことによって、「われわれ」と第三世界との関わりを問う作業の重要性を提唱されました。

第三に、平和論研究をあげることができます。現在日本を始め世界各国で「国際平和学」「平和研究」「平和学」研究が盛んに展開されていますが、日本におけるその祖形を、先生は幸徳秋水に求めました。従来の秋水評価が彼の『廿世紀之怪物帝国主義』における限界に力点がおかれてきたことに対し、先生は、時代的制約の中でいかに平和主義思想の成立に向ったのか、という点に再度分析のメスを入れ、レーニン『帝国主義論』評価とは異なる価値基準からの評価を下すことの重要性を解き明かしました。

先生はまた、学界活動はもとより、社会活動も活発に展開されました。学会活動においては、1966年から67年にかけて、日本貿易学会理事として活躍されました。また、1976年に鎌倉・市民アカデミアを主宰し今日まで代表として活躍され、1995年からは鎌倉・賢治の会の会長にも

就任され、1983年から1985年にかけては鎌倉市文化問題懇話会委員として地域の発展にも貢献されました。その結果、1995年には先生の長年にわたる鎌倉市への貢献が認められ、鎌倉市教育文化功労賞を授与されました。先生はこのように現在我が国で盛んになっている生涯学習の先駆者として活躍され、本学の評価を高めるのに大いに貢献されました。立教大学は、先生のような研究教育および社会的な貢献を称えて、1997年7月に本学名誉教授の称号を贈りました。

経済学部は、先生のこれまでの幅広い研究上のご活躍と本学部へのご貢献を記念して、本号を久保田順教授記念号といたします。先生の、今後いっそうのご活躍とご健康を祈念いたします。

1997年10月

経済学部長 疋田 康行